

## 【N分N乗方式】

1月25日の衆院本会議内で紹介された新たな税制案「N分N乗方式」について、政府の少子化対策をめぐり与野党の言及が活発となっています。

今回は、「N分N乗方式」について説明します。

### 1. N分N乗方式とは

N分N乗方式とは所得税の課税方式の一つです。家族を課税単位とみなして世帯全体の所得総額を家族の人数に応じた「係数N」で割り（N分）、一人当たりの所得税額を算出。これに再び「係数N」を掛け戻し（N乗）、世帯全体の税額を算出します。

この課税方式では、世帯の平均所得を算出することから扶養する子どもが多いほど一人当たりの所得金額が低くなる傾向があります。そのため、所得が多くなるに従って段階的に税率が高くなる累進課税の場合、低い累進税率が適用されることで課税額が抑えられる特徴があり、子育て世帯の税負担軽減を通じて少子化対策に資するといわれています。

### 2. フランスの事例

先進国の中でも少子化対策が進んでいるといわれるフランスでは1946年からN分N乗方式が導入されています。日本では課税も財産も個人単位となっていますが、フランスでは夫婦共有財産制がとられており、世帯単位での課税を受け入れやすい背景があったと考えられます。

フランスの場合、大人を1、子どもは第1子と第2子を0.5、1981年からは第3子以降を1として「係数N」を計算しており、子どもの数が多い世帯ほど所得税の負担が軽くなるため、出生率の上昇に貢献したとされています。

但し、フランスの出生率回復は他の少子化対策を含む複合的な要因によるものと考えられる点には注意が必要です。具体例として、出産から子育て期間中の様々な費用に対する費用補填型の各種手当の整備、育児休業などのワークライフバランスの社会的な浸透、婚外子に対する法的差別撤廃による婚外子の増加などが挙げられます。

### 3. 導入にあたっての課題

日本の所得税は個人を課税単位とした累進課税であり、過去にも子どもが多い世帯の負担を軽減する少子化対策の一つとしてN分N乗方式の導入議論が重ねられてきましたが、導入にあたっての課題も多く指摘されています。

一つは、もともと累進税率の低い中低所得者への恩恵は限定的であるのに対し、累進税率の高い高所得者の方がメリットを享受しやすいという点です。もう一つは、社会保障制度や他の税制などとの整合性と財源の確保といえます。

今後は本制度単体での導入議論から一歩踏み込み、個々の子育て政策の課題を補いあう複合的な少子化対策に向けた議論がさらに進展することを期待します。

## 閑話ひとつ

- ◇昨年末、FIFA ワールドカップカタール大会で盛り上がり、寝不足になった人も多いと思います。全力を尽くして戦った選手たちが、勝っても負けても相手を讃えるその姿に胸を打たれました。
- ◇東日本大震災から12年が経とうとしています。経験したことがない大地震、津波、そして原発事故…先が見えず暗く重い空気を吹き飛ばしてくれたのが「なでしこジャパン」でした。FIFA 女子ワールドカップドイツ大会で強豪アメリカを破り、世界一に輝いたときの笑顔が印象的で、復興の歩みを進めていく勇気をもたらした大きな出来事でした。
- ◇まもなく WORLD BASEBALL CLASSIC が開幕します。3大会ぶり3度目の世界一を目指す「侍ジャパン」の活躍が楽しみです。9月にはラグビーワールドカップフランス大会があります。
- ◇これまでスポーツを通して心を支えていただいた恩返しとして、各日本代表を精一杯応援したいと思います。「がんばれ！！ニッポン！！」  
(KK)